

2026 年 4 月

特別支援学校に通う子どもの教育・支援・療育に関わる皆さまへ



日本行動障害支援協会研究プロジェクトおよび英国ケント大学博士課程研究 へのご協力をお願い

〈子どもたちの行動障害の理解と対応法についての研究〉

学校・家庭・放デイ、皆が一緒に受講する

学校まるごとポジティブ行動支援（PBS）研修



### 研究説明書

この研究は、知的・発達障害のある子どもたちの行動障害（自傷・他害・破壊・強度のこだわり等）の予防と安全な対処に役立つ、ポジティブ行動支援（PBS）を、教職員・保護者・放デイ職員・その他支援関係者に、学んでもらう目的で行います。そして、学んだスキルを、研修後 1 か月～6 か月間にわたり、受講者がどのように子どもたちに適用・実践したか調査し、研修の効果を測ります。

効果を測定するために、①学校が開催するオンライン研修（原則 4 時間）を受講し、②オンライン・アンケートへ回答（原則 4 回）してくださる教職員、保護者及び学校関連職業者の方を求めています。オンライン研修は当日参加無理な方は、録画視聴で受講可能です。

プライバシー保護のため、研修の受講もアンケートの回答も共に無記名で行います。アンケートの結果は、行動障害のある子どもたちを効果的に支援するための学術研究や支援技術の開発に活用されます。皆様の実体験は、大変貴重なデータとなります。研究へのご参加をご検討頂ければ幸いです。

「学校まるごと PBS 研修（オンライン形式）」の内容

基礎編（2 時間）	実践編（2 時間）
困った行動やパニックが起こるメカニズムについて 行動の前後に注目した観察について（ABC 観察法） 行動の理由分析のしかた（機能分析） 困った行動やパニックを少なくするための予防的支援について 困った行動やパニックが起こったときの緊急対処について 英国と日本での支援の実例	失敗しない支援計画の立て方 薬や身体拘束を使わずに安全に興奮状態（例：暴力）をおさめる具体的方法 すぐに役立つ予防のための支援策 すぐに使える緊急時の対処法 英国と日本での支援の実例



研究への参加対象者：

1. 知的または発達障害があり且つ行動障害（自傷、他害、こだわり、パニック等）のある子を療育・教育・支援する保護者や職業者（学校、放デイ、その他関連事業含む）であること。
2. 学校が主催するオンライン研修を受講できる方（無料・計4時間・録画視聴可）。受講の方法については学校の案内に従うこと。
3. 任意オンラインアンケートへの回答（研修の前・直後・2か月後・6か月後の計4回）にご同意いただける方。1回の回答時間は2分～13分で、QRコードで携帯やパソコンから回答。QRコードが使えない場合は紙面で回答も可。設問の内容は「研修の満足度等」「獲得した知識」「対人サポート」について、選択式回答が中心。回答はコンピュータ上で自動集計され、数値の変化を比べて研修の効果を測定。

アンケートの回答は無記名ですが、統計的処理のため記入者の年齢層、性別、職業等の個人情報をお尋ねします。回答を避けたい場合は、「無回答」を選択できます。また、研究目的でのデータ利用に関して同意いただける方のみ、ご提出をお願いします。

「深刻な行動障害」のある子の保護者および学校の先生・放デイの方へ：

深刻な行動障害のある、16歳未満のお子様をお持ちの保護者の方には、お子様の年齢、性別、診断名、問題行動の頻度と重症度についての質問紙にも、ご同意を得た上で、回答をお願いしています。保護者やお子様の名前は無記名で、回答は選択式です。1回の所要時間は3～10分です。お子様の行動の変化を調査するため、研修前、研修直後、研修2ヶ月後、研修6ヶ月後の時点で回答をお願いします。また、「深刻な行動障害のある」子どもを担当されている先生や放デイ・スタッフの方は、その子どもの保護者の同意を得た上で、その子の行動の変化を追跡するため、同じ質問紙に同時点でのご記入をお願いいたします。



データの利用とプライバシー保護：

ご提供いただいた回答データは、大学の研究者によって統計的に分析されます。結果の概要は、参加者の皆様と共有するために研究の終了をもって、学校に送付されます。また、英国と日本の学術誌へ論文として公開される予定です。論文には、参加者や地名・学校・機関・事業所を特定できる情報は一切含まれません。

研究倫理と自由意志に基づく参加：

本研究は、英国ケント大学博士課程研究の一環として、またNPO法人日本行動障害支援協会の研究プロジェクトとして、同大学倫理委員会の研究承認と日本の研究倫理規定に準拠して実施されます。この研究へのご参加は

完全に個人の自由意志に基づいて行われ、参加者は理由を研究者側に伝えることなく、いつでも参加を取り消すことができます。（例えば、参加者は、受講中やアンケート記入中にブラウザを閉じることで参加を取り消すことができます。）但し、アンケート提出後は、データは無記名で個人を特定できないため、取り消すことはできません。

ご提供いただいたすべての情報は、日本の研究倫理と英国のデータ保護規則（GDPR）、およびケント大学の研究プライバシーに関する通知

（<https://media.www.kent.ac.uk/se/53643/ResearchParticipantUniversityLevelPrivacyNoticev2.0.pdf>）に基づき、守秘されます。収集されたデータは、研究期間中は大学のサーバーに電子的に保存され、研究者のみが利用し、研究完了後、5年間の保存期間を経て破棄されます。

研究参加に伴う利点とリスク：

参加者は研修の受講により、子どもたちの行動に、安全に適切に対処するための実践的な知識が得られることとします。本研究に参加することにより、参加者の身心に発生するであろうリスクや危険性は想定されておりません。本研究への参加は無料ですが、受講とアンケートの回答へ、お時間を割いていただくことになります。お忙しいことと思いますが、ご協力いただければ幸いです。

また、研修会へご参加後、子どもの行動への対処法についてさらに情報やサポートを得たい場合は、NPO 法人日本行動障害支援協会の無料相談メールや、当協会ホームページから配信する情報や動画をご活用ください。

無料相談メール：[info.cbf.jp@gmail.com](mailto:info.cbf.jp@gmail.com) ホームページ：[www.behaviorsupport.jp](http://www.behaviorsupport.jp)

今研修への参加に関し、ご質問やご意見、ご不満な点等がございましたら、学校の研修担当者に直接お話し頂くか、又は研究者にお気軽にメールでご連絡願います。

研究者の連絡先

英国ケント大学心理学部ティザードセンター

〈研究正式名〉日本における知的・発達障害のあるこどもの教職員と保護者を対象とした（PBS）遠隔ポジティブ行動支援に関する全校研修の実現可能性と効果についての研究

主研究者：ゲラ弘美 博士課程在籍（hg256@kent.ac.uk）NPO 法人日本行動障害支援協会代表

指導教官：キアラ・パデン博士（C.M.Padden@kent.ac.uk）セレナ・トムリンソン博士

（S.Tomlinson@kent.ac.uk）、ケント大学心理学部倫理委員会（psychethics@kent.ac.uk）